



馬耳東風

列車の床にネコの足跡発見！ トンネルに入ると足跡が見事に光り、その色合いがいかにも神秘的で追い掛けたいくなる。イラスト化されるとイヌでも爪跡が消えるが、肉球と指跡からネコであることは間違いない。指跡を追うと4, 2, 2, 1, 0, 0, 0, 3, 3と不規則に並びかなり活動的に見える。0は肉球だけのものである。当たり前だが足跡は動物種に固有で、足跡や足紋を取るとその生態や進化の過程まで分かる。気がつくときアターアニメが走行中の車輻からトンネルの壁に投影され、ネコと森の仲間がうごめき、注目の的になっている。暗いトンネルは子どもには怖いイメージがあるが、楽しいものへと転換を狙った発想が素晴らしい。トンネルを抜けると、まるで夢から覚めた感覚になる。やがて絶景の溪谷美を堪能するうれしい停車サービスとなる。乗客は思わず窓辺に駆け寄り息をのみながらシャッターを切る。国鉄から引き継いだ福島県の山間部を走る第三セクターの会津鉄道が、市民と知恵を出し合って工夫した演出だ。芦ノ牧温泉駅の「名誉駅長ばす」は、チョコと駅長の帽子を載せた老齢の長毛雌ネコである。近くの子どもに拾われてこの方、女性駅長の世話になり駅舎内に表札付きの専用小屋がある。15分の長い停車時間中に乗客の関心を集めながら、小屋で気持ちよさそうに休息していた。多くのメディアの旅番組や情報番組で取り上げられ、宣伝効果抜群の貴重な存在だ。ネコの駅長は他の路線でも

しばしば話題になり、特に若い女性に人気がある。車輻は、お座トロ展望という3両編成の観光列車である。車輻の外に彼女のキャラが描かれ、グッズも豊富でカレンダーもある。大内宿おおうちじゅくの風情から千木を載せた国内唯一の茅葺屋根の湯野上温泉駅も16分のゆっくり停車で、駅に備え付けの足湯はすこぶる快適である。独特のニュース性が温泉や近くの景勝地へつり塔の崩に加えてうれしい。ネコを据えた取り組みが、こんなにも人々を魅了し幻想の世界へ誘ってくれると、旅情もひとしおである。さらに、湯野上温泉駅から一山越えて取り残されたような大内宿の重要伝統的構造物群国内3番目の宿場町保存の取り組みは、多くの人々が訪れ、山村の人々に自信と活気をもたらし、地域再生への足掛かりとなった。山村集落に生活基盤を持つ人々にとって、近代化か保存かは厳しい選択であったろう。所属する獣医師会が東北支援を念頭に、今回で3回目を迎えた旅行先に奥会津が選定され、その新鮮な記憶を記した。農山村をどう再生するか、今や大きな課題である。一村一品運動に見る特産物の開発がある。また、観光資源は人を集めることである。国際競争激化の中で地域再生に向けて、工場誘致や特産物・観光化があるが、地域を人間の生活の「場」として再生させ、環境保全・地域文化を通し生活の持続可能性を追求することだと財政学の神野直彦東大名誉教授は説く。今と昔が出会う奥会津はその縮図を見せてくれた。

(柏)